

## 字幕翻訳者として、秋田から世界とつながる日々

品川 愛子 (平成17年卒)

秋高に通っていたあの頃、自分がまさか中国の京劇に魅せられ、博士課程にまで進むとは思っていなかった。芸術大学で音楽学を専攻し、中国の音楽大学への留学を経て、気づけば中国の芸術の奥深さにすっかり引き込まれていた。その後、十年前に秋田へ戻り、地元企業での会社員を経て、二年前に翻訳の仕事で独立した。現在は二人の未就学児の母として、日々仕事や育児に奔走する毎日を送っている。

仕事の中心は、インターネットの動画配信サービスで配信される中国ドラマの字幕翻訳や、映画の翻訳で、地元企業のビジネス翻訳のお手伝いもしている。中国ドラマはフィクションのエンターテインメント作品であるから、厳密な考証が求められるものばかりではない。それでも、中国ならではの価値観や文化が物語の題材になることも多く、それらを学び理解しながら、日本の視聴者が分かりやすいような字幕を作っている。劇中に流れる音楽には中国の楽器を使った楽曲も多く、特に古装劇と呼ばれる時代劇のジャンルでは、映像・言葉・音楽が一体となり、娯楽作品として中国文化の世界観を楽しむことができる。長年にわたって中国音楽と文化を学んだ経験を活かし、そのような作品の奥行きを肌で感じつつ携わることは、この仕事ならではの喜びだ。中国語は豊かな響きを楽しめる言語だと思っているが、耳で言葉の響きを楽しみながら、日本語の字幕で作品の世界をしっかりと味わっていただけるよう橋渡しをする。厳しい納期や品質に責任があり緊張感に満ちた仕事ではあるが、秋田にいながら中国の文化やエンターテインメントに関われること、それ自体がうれしい。

字幕翻訳は、国籍も住む場所も年齢もさまざまなメンバーがインターネットで連絡を取り合い、時に議論を交わしながら一つの作品を仕上げている。チームの仕事だ。映像作品を字幕で楽しむ場合と原語で楽しむ場合とでは、どうしても情報量に差が生じる。文字を詰め込みすぎれば視認性が悪くなり、かえって没入感が損なわれる。私たち翻訳者は、そのバランスを考慮しながら慎重に言葉を選び、限られた字数の中で過不足なく物語のエッセンスを届けようとしている。特に何十話にもわたるドラマでは、チーム全体で緻密に統一性を保ちながら作品を仕上げている必要がある。最近では校正の仕事が増えたが、複数名の翻訳者の個性を活かしながら、字幕全体の統一性を担保する工程を担っている。ドラマの翻訳というと華々しいように思われる方もいるかもしれない。しかし舞台裏はととても地道で泥臭い。少なくとも校正の場合は、徹底的に黒子の仕事だ。それでも、視聴者の方が作品の世界に没入し楽しんでくださっているとすれば、それ以上のやりがいはない。



しながわ・あいこ / 東京芸術大学音楽学部楽理科卒業、同大学院修士課程修了。中央音楽学院への交換留学を経て、中国音楽学院大学院博士課程（中国伝統音楽理論専攻）単位取得卒業。帰国後十年前に秋田へ戻り、地元企業勤務を経て二年前に翻訳者として独立。現在は大手動画配信サービスの中国ドラマ字幕翻訳・校正、映画翻訳など映像翻訳を中心に手がける。女性同窓会「若菜会」幹事。

仕事以外では、秋田に帰ってから思いがけない縁に恵まれた。女性同窓会である「若菜会」の存在を知り、幹事の末席に加えていただいた。先輩方が多くの役割を担ってくださっており私自身はまだ大したことはできていないのだが、秋田を離れて久しく同窓とのつながりも薄くなっていた中で、まったく別の学年の方々や「同じ母校で学んだ」という緩やかな縁でつながれること、古巣があるのだと感じられたことが、個人的にはとてもうれしかった。

高校生のときに思っていたよりも、世界は広く、正解のない問題が多く、予想外の出来事や人との出会いに満ちていた。色んな人やチャンスに導かれながら、気づけば今の自分がある。時代も確実に変化している。インターネットを通じて世界とつながることが当たり前になった今、地方にいることは制約ではなく、自分らしい働き方を設計できるチャンスになりうる。どんな場所においても、どんな過程を経ても、自分らしい生き方を諦めないこと。その積み重ねが、思いがけない未来につながると、自分自身の経験から感じている。

人生のさまざまな局面で、柔軟な働き方がどうしても必要になる時がある。育児、介護、体調の変化——人生の節目ごとに、働き方を見直さなければならない場面は誰にでも訪れる。そんな時に、会社員以外の選択肢があることを知っているだけで、見える景色は変わるのではないだろうか。私自身、字幕翻訳という好きで得意な仕事にたどり着いた背景には、育児という大切な人生のステージに自分らしい形で対応していくため、場所と時間を選ばない仕事をしたという思いがあった。仕事の選択肢は、思っているよりずっと広い。そのことを一人でも多くの人に知ってほしいという思いから、今年中に友人と、雇われない働き方をしている人々の仕事を持ち寄り、見本市のようなイベントを計画している。現在鋭意企画中ではあるが、今この秋田という場所で、次の一手を楽しみながら進んでいきたい。



未来のビジネスシーンへ  
株式会社 **カネヒコ**

〒010-0966 秋田県秋田市高陽青柳町17-64  
TEL 018-823-8317 FAX 018-864-6353

代表取締役  
**阿部 大助** (昭和61年卒)

www.kanehiko.co.jp



代表取締役社長  
**船木 保美** (昭和51年卒)

秋田市八橋本町3丁目7-10  
TEL 018-824-1155  
https://www.fm-akita.co.jp



**秋高気分屋食堂**

AFM IJIFUMI 秋田

秋田高校内学生食堂  
同窓生、保護者のご利用もお待ちしております  
営業日はInstagram gakyusyoku.syuukou で!